ガバナー補佐自分を語る

「ロータリーを知る喜び」

国際ロータリー第2510地区
第3グループガバナー補佐
松下　早苗（栗山RC）

第3グループのガバナー補佐を務めさせて頂いている栗山RCの松下早苗と申します。
ロータリークラブに入会したきっかけは「来月の火曜日から例会に来なさい。」と父の1周忌に尊敬する女性経営者の太田ひろ子さんに言われました。ロータリーへの誘いだと悟り、やんわり断ったところ「入会したいかどうかの希望を聞いているわけではない。来なさいと言っているの。」そこから私のロータリーが始まりました。
誘って下さったひろ子さんは身長140センチの小柄な女性ながらゴルフのスイングは誰より大きく、ホールインワンも2度。歯に衣着せぬ厳しい方でした。
初めての地区大会やIMでも「あの方に挨拶してきなさい、お父さんがお世話になった人だから」との指示にあたふたと応じていました。
ある日、ひろ子さんから電話がありました。病院からです。とてもか細い声で「今度の例会に行きたいのにお医者さんが駄目だというの。みんなに伝えたいことがあるの。さなちゃんのお父さんの話もしたいの。」と。思わず涙がこみ上げてきました。「その話は絶対に聞きたい。だから今は無理をしないで療養して元気になったら例会で卓話をして欲しい。もっとたくさん話が聞きたい。」と電話を切ったのが最後の会話になりました。また厳しく注意されたいです。そこにはいつも優しい思いやりに溢れた愛情があったから。

80歳で天国のロータリークラブの末席に加えて頂いた父はJC卒業後、第4グループガバナー補佐、古野重幸氏のお父様で当クラブのチャーターメンバーである古野元一郎氏に誘って頂きました。
当時は毎日のようにロータリークラブのメンバーが家にやって来て熱く語っていました。時には立ち上がっての口論になり怒って帰っていく人もいました。なのに次の日はまたニコニコと楽しそうにロータリーについて語り合っていました。常に本音で語り合う姿は本当に羨ましかったです。
家族親睦も盛んでした。楽しい思い出の枚挙にいとまがありません。父も病床でありながらも例会を気にして、出席したがっていました。

このロータリーに熱い2人をはじめクラブの先輩ロータリアンには共通点があるように思います。
とてもよくロータリーの勉強をし語り合っていた事です。
私にはその方法がわかりませんでした。よくわからなければその意義も面白さもわかりません。コロナ禍で会うこともままならなず気持ちが離れていらっしゃると思いますが、こんな時こそチャンスなのではないでしょうか。
Zoomなどを利用して今までになかった方法が試されるようになりました。ロータリーを知るためのRLI研修もあります。
知る喜びは知識とともに知人をも増やすのではないかと思います。
せっかくロータリークラブの一員になったのですから、素晴らしい人との出会いの機会、楽しい親睦の機会、笑顔の会える奉仕の機会を愉悦しようと思っています。